

歌は語れ (ファイルNo.30)

「歌は語れ、セリフは歌え」という言葉があります。歌手のための、また役者のための言葉でもあるでしょう。誰の言葉か定かではありません。世界的なヒット曲『上を向いて歩こう』の歌手、故・坂本九さんは「メロディは語れ、詞は歌え」と話していたように記憶します。母親は我が子に、歌うように話しかけるべき、といます。いい言葉です。歌うことと語ることの違いはどこにあるのでしょうか。

それが今回のテーマ。日本語だけでなく世界共通のテーマかもしれません。

◎今様は流行歌

万葉集や古今和歌集など日本の古歌は文字でしか残されていませんが、当然、声に出されていたはず。これら古歌も歌唱されていたのでは、と大胆な推理をしてみます。大陸から楽器も伝わっていましたから、その伴奏で歌唱されていたと想像できます。少なくとも平安時代末期の歌謡集『梁塵秘抄』に収められた今様が広く歌唱されていたことは分かっています。歌い方が書かれていました。だが伝承は絶え、現在では解読困難。録

音装置どころか楽譜もなかったため、どんなメロディであったかは不明。

「遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ」(遊ぼうと、戯れようと生まれてきたのか。無心に遊ぶ子ども声を聞くと、大人の私さえそわそわする)

この今様にメロディをつけ、歌謡として全編を貫くテーマにしたドラマが、4年前のNHK大河『平清盛』。公的立場の人からのピント外れな批評や視聴率は残念でした。歴史好きなら、新機軸のテーマ曲、公家から武家政治への過渡期という日本史上重要かつ魅力的な時代、西行法師の描き方、これらに高評価を与えるはずなのですが。マニアックな一部若い女性には好評を得たとのこと、せてもの救いです。

◎語れば歌に

小倉百人一首による競技かるたは「畳の上の格闘技」と形容されるスポーツ。注目していただきたいのは読み手です。朗々と節をつけて読み上げます。楽器の伴奏でもあれば、歌謡曲と大差がありません。昔の歌もおそらく、このよ

うに「歌われた」のではなかったでしょうか。

言葉は書かれるものであると同時に声に出されるものです。私たちが言葉を口にする時、そこには必ず抑揚があります。抑揚とは、音の高低のパターンのことで、イントネーションとも言われます。ちなみに、単語の中での音の高さの違いは高低アクセントであって、イントネーションとは区別されます。余談ながら、アクセントが逆になることが多いのが大阪弁と東京方言です。大阪人であれば「箸をもつて橋の端を渡る」が正しい大阪弁でいえるはずですが、箸・橋・端はアクセントが異なるのです。

語る言葉に抑揚があるなら、音の長さや大小などを強調すれば、それは歌謡となります。語りと歌謡の差は本質的なものではなく、少なくとも大同小異でしょう。和歌といえば文字が、現代の歌といえば、メロディが頭に浮かびます。それは仕方がないことですが、いずれも声に出される言葉なのです。私たちは、本稿を含め新聞や雑誌の散文に慣れ親しんでいます。説明や論理に適した散文は、歌や詩と別物のように思えます。しかし、優れた散文はリズムを持ち、メロディが流れるようでもあります。そんな稀有な散文を目指したいものです。同様に、話す時は歌うようでありたいものです。

**ガラストップ ガスコンロ販売中!**

炊飯・湯沸し機能付

ご飯の炊きあがり、お湯の沸騰も電子音でお知らせ、自動で消火。



**台数限定!**

60cm PA-92WCR(R/L) NEW

定価: 91,584円(税込) ※1

現金特価 **53,800円** (税込)

7年 ※2 リース 月々 **780円** (税込)

※1 販売は1年メーカー保証付  
※2 リースは7年間メーカー保証付

**健康ライフ**

薬を飲む時間 服用回数が大事



食前・食間・食後。薬の処方箋(しょうほうせん)は、飲む時間を指定しています。これは守らなければなりません。食前は食事の30分くらい前、食後は食事の30分くらい後です。食間を「食事をしていない間」と勘違いしている人もいます。食間は、食事と食事の間、食後2〜3時間をさします。食事を抜いた場合は、時間で考えます。つまり食後の薬は、食事予定だった時間の30分後。空腹だと胃が荒れると思うかもしれませんが、それほど心配する必要はありません。

薬を飲むうえで大事なことは時間よりも服用回数です。食前・食間・食後と指定するのは1日に3回飲み合わせるための目安。食前の薬を飲み忘れたら、食後に飲んで大丈夫。

**★ウドのキンピラ★**

①ウドを5cmくらいの長さに切り、カツラ剥き、拍子切りにし水に10分ほどさらす。

②水気を切り、ゴマ油で炒める。酒、みりん、粉末かつおだし、醤油を入れ、汁気がなくなるまで炒める。好みで一味を加え仕上げ。

ご飯のおかずだけでなく、ビールのつまみ、弁当の一品になります。梅肉和えであっさり。子どもから大人まで、よく食べてくれます。

わが家の自慢料理

〈大津市 田中啓子様〉

「わが家の自慢料理」にふるってご応募くださるよう、お願いします。採用された方には図書券をプレゼントします。

